

愛有

29号

立 行 市 校
岡 岡 女 子 高 等 学 校
福 岡 女 子 高 等 学 校
友 修 会
印 刷
松 古 堂 印 刷 (株)

友修会入会式



2月24日、母校講堂で2020年度友修会入会式が行われました。今年度はコロナ禍のため時間短縮で行われ、友修会からは会長のみ出席でしたが、無事296人の新会員を迎えることができました。箴島校長先生の挨拶のあと、生徒代表の村上唯音(むらかみ・いお)さんは挨拶の中で「卒業後は、友修会の一員として協力していきます」と述べました。新会員を迎え、役員一同さらに身を引き締めて頑張っていきます。



これからは、誇り高き友修会の一員として、先輩方と共に母校の伝統を支え、福岡女子高校がさらに活気溢れる学校へと発展していくことを願って、この学校を見守っていくことをここに誓います。

旅立つとき

卒業生代表
村上 唯音

私たち、296名は3年前の4月、胸を高鳴らせてこの福岡女子高校に足を踏み入れました。あれから早くも3年という年月が経ち卒業を目前にしています。私たちはこの校舎とここにいるみんなと沢山の思い出を作ってきました。

ドキドキしながらクラスの人に思いついて話しかけた能古島遠足。クラスの仲を深めるきっかけとなった体育祭や文化祭。今年度は新型コロナウイルスの影響により、二ヶ月に渡る休校があり改めて、

学校に通え授業や部活動として行事ができていた事への有難みを痛感しました。学校再開後の高校生活では、いままで通りにいかないことが沢山ありました。

それでも楽しく過ごせたのは、いつも傍に居てくれた友人や先生方の暖かい指導、そして友修会に先輩方のお力添えがあつたことです。本当にありがとうございます。

このような時代ではありますが、こうして私たちは福岡女子高校の卒業生として、旅立つことができそうです。先の見えない世の中ですが福女で育んだ「自立 共生 創造」のこころを忘れることなく、これからの人生を一步一步、歩んでいきます。

就任のご挨拶

第31代校長 山田 耕史



友修会の皆さまにおかれましては、日頃より母校並びに後輩に対しまして、物心両面におたるとご支援を賜り、心から感謝申し上げます。令和3年4月1日付で本校31代校長を拝命いたしました。「山田 耕史(たかふみ)」と申します。専門教科は保健体育で、長年にわたり、教諭

として保健体育の授業、部活動ではバスケットボールの指導をとってまいりました。福岡女子高等学校は、校長として最初の赴任校となります。

これまでの教諭、副校長等の経験を活かして「未来を担う福女生が、生涯にわたって主体的に生きるための人間力の育成・市民に愛される魅力あふれる学校づくり」のために、校長として職責を果たす覚悟でおります。どうぞよろしくお願いたします。

思いは母校としての『福女』とともに

第30代校長 箴島 賢次



教職38年間を締めくくる還暦という人生の節目の年を、福岡女子高校の校長として勤めることができたことは、この上ない喜びを感じて幸せな4年間でした。

生徒の健やかな成長を願い、日々の教育活動を邁進する先生方。その熱い思いに伝えようと勉強や学校行事、部活動などに一所懸命に取り組み、校訓である「自立 共生 創造」を根幹に人として成長

し続ける福女生のみならず。そんな姿と笑顔があふれる福岡女子高校で勤められたことを光栄におもいます。何よりも、それらの活動を母親のような溢れんばかりの深い母校愛で包み込んでくださった江藤会長、藤田関東支部長、天岡関西支部長、石田顧問、太刀川顧問をはじめとする友修会会員の皆さま方には、本校の発展のために、物心両面にわたる多大なるご支援をいただき、本当にありがとうございます。



箴島校長先生からのエール

結びに、これまで私に関わっていたいたすべての方々に感謝申し上げますとともに、これからの福岡女子高校のますますの発展を祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。

令和2年度 卒業生進路状況 (296人)

4年制大学(医療大学含)	44人
短期大学	59人
看護・医療系専門学校	22人
専修学校	108人
就職	47人
その他(留学会)	16人

令和3年2月28日現在

総会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ会員の皆さまの安全第一を考えて、今年度の友修会総会・懇親会は中止といたします。何とぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

友修会事務局

〒819-0013 福岡市西区愛宕浜3丁目2番2号
福岡市立 福岡女子高等学校セミナーハウス内
TEL/FAX 092(882)1858
常駐日/火・水・木曜日 9時~15時

◆関東支部・関西支部もあります

友修会専用ホームページを開設

<https://yushukai.jp>

スマホの方はこちら▶

住所や名前の変更の際は連絡してください。



制服よもやま話

「徒然なるままに」

今年1月、FBS福岡放送「福岡くん」という番組で、福岡の女子中学生が「カワイイ」と感じる制服を選ぶというテーマの放送がありました。福岡の制服が4位に選ばれ、ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

福女は、昨年創立95周年を迎えましたが、これを機に制服の変遷について触れてみたいと思います。

「はじめに」

福女の制服の歴史は、昭和初期、福岡市章を織り込んだ紺の長着と袴から始まりました。



友修会第3代会長・林ユキエさん（昭和4年卒）時代の頃のことです。制服の柄に市章が使用されているのですから、一目で福岡市第一高等女学校の生徒とわかります。皆、プライドを持って制服を着用し、通学していたと伝え聞いています。

「時代を先取り」

戦後、新学制改革で福岡市立第一女子高等学校、その後、福岡市立福岡女子高等学校となり、長きにわたり着用されたセーラー服が誕生します。

岡女子高等学校となり、長きにわたり着用されたセーラー服が誕生します。



画一的な制服に不満を感じる生徒、時代を先取りしたい、おしゃれに敏感な福女生にとって既存の制服への抵抗です。

一部の生徒ではありましたが、上着丈を詰める、ネクタイは個性的にアレンジ、そして一番の難題、スカート丈は長いか短いかで生徒と先生との攻防が続きました。

姪浜校舎の壁に、床から35cmの位置に紺のテープが貼られ、それでスカート丈違反は一目瞭然。

また、中間服がなく温度調節ができない、着脱しにくいという不満の声もあつたようです。

「デザインブランド」

そんな中、愛宕浜の埋め立て地への移転、学科改編が決まり、これを機に新制服の導入を検討することになります。

当時は、有名デザイナーの制服部門進出が相次ぎ、山本寛斎、森英恵などデザイナーズブランドの制服を導入するのが時流でしたが、ここにも福女らしい選択と検討がなされました。



上着の前立て中央に刺繍で縫い取られた市章は変わらず、後襟に白い二本ラインが交差したデザインは、襟を立てると「女」という文字を表している、他校のセーラー服とは異なる福女の特徴を表したものでした。夏服は身ごろが白の半袖で、スカートと襟の紺と白の配色が絶妙で、涼やかさ・清潔感が一層感じられ、多くの支持を集めていました。

行に左右されないデザイン。着脱し易く温度調節が可能なシャネル型スリーブ。3年経過にも耐える上質な生地。生徒の個々の体格・体型にもフィットする立体裁断。落ち着いた色目の紺は、誰にも似合う絶妙なトーンでした。紺地に調和した茶系の配色の特徴的なチェックが襟と前立てと上着の裾にあしらわれ、個性的で都会的な香りを醸し出しています。丸襟は、女性らしい優しさを

感じさせ、ブラウスの丸襟を上着から出して重ねること、より白襟が清潔感を感じさせます。スカート丈もやや短めで、紺のハイソックスとのコーディネートで、なお一層お洒落な雰囲気を感じさせています。

決定の理由には、「生徒が自信を持って生き生きとした3年間を過ごせ福女生としての誇りを感じる制服である。」「これからも歴史を紡いでいく福女にとって、必ずや息の長い制服になる確信が持てる。」「などがありました。

新制服には、そんな先生活の福女への期待と願いが込められていました。こうして平成7年4月、愛宕浜校舎時代の歴史が新制服と共に始まります。現制服に替わって早、25年が過ぎました。今もなお中学生から着てみたい制服だと言われ、人気を保ち続けているのは喜ばしく、制服に込められた想いを改めて考えました。

わらう門には福来たる



昭和55年被服科卒 水谷 昌子

昨年はコロナウイルス感染症の脅威に晒された辛い一年でした。家族や友人と過ごす時間も自粛が求められ、これまでの日常の楽しみや喜びも奪われました。

コロナ禍は私たちの暮らしはもろもろ心や体調にも影響を与え続けています。一年を迎える今、新しい生活様式・変化に対応する力Withコロナの、

快適な生活を作り出すためのヒントは高校時代の思い出でした。高校生3年間、同じクラスの仲間とは、とにかくよく笑う天真爛漫な女子の集りでした。

授業中、先生の仕草が可笑しくて笑ってはいけなそうと思えば思うほど耐え切れず吹き出し、つられてクラス中大爆笑。

合唱コンクールでは、ライバルクラスへの対抗心に燃え、時に喧嘩になるほど毎日熱心に練習したのに、あっさり負けて2位。悔し涙ではなく大爆笑に発展する始末。

笑った回数は人生でこの3年間が一番でした。博多弁で「のぼせもん」その「のぼせもん」集団は笑うことで心の疲労が回復されることを実感していました。

更に仲間同士、理解しあって、より良いものを創造する力を身につけたのではないのでしょうか。当時は気づけなかった素晴らしい癒しの環境の中の学校、先生、仲間と思いが私の生きるヒントと財産です。

あのときの私 & いまの私

思い出さ感謝を今へ



平成18年生活情報科卒 中村 南美

福女に入学してから、検定取得を頑張った記憶があります。ワープロ、簿記、秘書検定など様々な資格取得のために昼休み、放課後もパソコン教室で勉強したこともあり

ました。試験と時期が重なった時は辛かったです。合格した時はとても嬉しかったです。課題研究では西区役所

でのインターンシップを選ばし、週に一日を半年間、職業体験させていた。初めての大人の人と働く機会でしたので働く大変さやビジネスマナーを学ぶ場となり、今の仕事でも生かされています。

当時、私のいた生活情報科では専門学校への進学、高校卒業後は就職がほとんどで短大に進学を希望していた私は相談相手がおらず悩みは多かったです。福女の先生方が、合格した時はとても嬉しかったです。課題研究では西区役所

くさん相談できる環境で良かったなと思います。今は高校の時に銀行口座を作りに行った際にテキパキと働く女性行員の姿がきっかけで銀行員になりたいと思ひ、入社して、現在は資産運用担当として仕事をしております。たくさんのお客様、上司、後輩のおかげで10年以上勤めることができている。周りの人のおかげで今の自分がある。こう気づけたのも社会人になってからです。感謝の気持ち忘れずにF銀行員として仕事をしていきます。

ベNK細胞だの、ウイルス感染細胞だとか、幸せのドーパミン等々、笑顔を研究するチームに所属しております。

笑いが免疫力を上げ健康に良いこと、病気を治す効果が期待できること、病気を予防すること、病気を予防すること、笑いと、笑い療法士として役に立つことが目標です。

『笑う門には福来る』皆に笑って前向きな日々の生活を送っていたきたい。

どうかこの新興感染症が一日も早く収束し穏やかな日常が戻ることを願っております。

編集後記

今年度は、コロナという新しい感染症との闘いの日々でした。総会を始め多くの活動が制限され、世界中、今までの日常が一変し、先の見えない不安に駆られ、これまでの生活が決して当たり前でないと実感させられました。一層「繋がり」と「感謝」が実感できた年でもあります。

「夜の明けぬ朝はない」と言います。物事は必ず良い方へ変わること信じ、感染対策を怠ることなく、今できる事を粛々とやっていくばかりです。

友修会も新年度にあたり初心に帰る、新しい形の同窓会を模索しながら進んで参ります。会員の皆さまのご助力をよろしくお願ひします。